

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270903055		
法人名	社会福祉法人 南生会		
事業所名	グループホームハビネス		
所在地	千葉県船橋市古和釜207番地		
自己評価作成日	2010年2月20日	評価結果市町村受理日	2010年3月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	2010年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・自然環境に恵まれ、隣接の果樹園にてお花や季節の果物(ブルーベリー・イチジク・こけもも・柿・みかん・ぶどう等)の採取が出来ます。</p> <p>・木造の平屋建て、自然なやさしい光が入り、暖かな環境です。</p> <p>・職員は明るく活気があります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの立地は畑や果樹園等に囲まれた田園の中に立地し、散歩の環境は抜群に恵まれている。農家の方が畑仕事をされているので、挨拶や立ち話で顔なじみの関係となっている。また、野菜等届けて頂く事もあり地域の中で暮らす事が実感できる信頼関係が構築されている。また、小中学校、保育園との交流も盛んである。当ホームは採光を配慮した明るい居間や居室で、利用者も職員も笑顔で共同生活を過ごしている。当ホームは法人の「人間尊重」理念に基づき、「快適・安全」ニーズに基づく個別援助の方針を掲げ、全職員が理念・方針を共有化して支援している。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事業所の理念とし、事業所の基本方針として地域密着型サービスの意識をふまえている。	「人間尊重・感動のある日々提供」等の法人の理念に基づき当ホームの「快適・安全・個別ニーズ援助・知識・技術向上等」の方針を掲げ、全職員で共有化している。	ユニット会議時等に理念・方針から見て実践面を振り返り、一層の共有化を期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている、祭り、保育園、小、中学校の行事への参加、散歩時の挨拶、立ち話等行っている。	立地は畑や果樹園に囲まれた立地で、散歩時には畑仕事をされる農家の人々と挨拶や立ち話をされる。また、一人で外出される利用者を見守り連絡をして下さる。地域と暖かい人間関係が構築されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価で指摘を受けた事項、ご家族からのアンケート、事故報告等発表し意見を頂く事により、サービス向上に活かしている。	町内会の方、民生委員、地域介護支援専門員、地域包括支援センターの方、家族の方等の参加により年4回程度開催されている。当ホームの運営や外部評価の報告と同時に地域貢献に対する意見も提案され、講習会を開催している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的には行われていないが、事故報告、質問等ある場合には、その都度担当者より意見を聞いている。	介護制度上の質問や事故関連の報告等により連携をしている。今後外部評価の報告により一層の連携促進が望まれる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で意識をして取り組んでいる。	法人の「身体拘束廃止」基本方針を踏まえ、職員には具体的にBed柵や玄関鍵等研修し確認している。利用者の外出時はあとからついて出て見守っている。	
7		虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者に対する態度、話し方、認知症を理解する為の話し合いの中で常に意識して行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方については本人、又周囲の方と相談している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明を行い、質問等に答えている。又改定時、家族会を開き説明、疑問点を尋ね説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望、苦情に対しては、その都度対応している。又外部評価のアンケートに関しては家族会、運営推進会議にて発表し改善に取り組んでいる。	家族の面会が多いので、その都度ご意見を伺う事が多いが、敬老会等行事に家族参加される場合にアンケートを頂き運営に反映している。	当ホームの運営に関して家族参加等の行事の機会に出来るだけ多くアンケート等による意見が頂けるよう望みたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われている会議、又日々の業務の中で職員の提案を反映させるようにしている。	日常業務の計画主体は職員で運営されている。一層職員の提案による新しい試みが多くなるように期待したい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員に対しては人事考課を行っている。又、外部、内部研修の機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議(法人)、グループホーム会議にて必要と思われるテーマについて研修を設けている。又日々の業務の中で介助方法等その都度トレーニングしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加、情報の共有を図り、同研修会に参加、質の向上に向けて話し合いが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において、ご本人が見学し納得されるよう促している。又初期に関しては、特にコミュニケーションの機会を多くし、不安感の減少を図ると共に、ご本人の要望を取り入れられるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの時点より、相談や質問に応じている。又初期の段階では特に電話連絡を密にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に応じて得意な事や日々のお話の中から、職員が学ぶ機会を得ている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族応じて、お墓参り、受診、散歩、衣替え等行って頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては時間等の制限は設けず自由に行って頂いている、ご家族の協力を得て馴染みの場所へも行くようにして頂いている。又知人も気楽に足を運べる雰囲気である。	家族の方の面会が多く、また、友人の訪問もあり、馴染みの関係が保たれている。利用者アンケートでも行きやすいホームとの回答が多かった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士話をしている時や何かをしてあげている時は、危険の無い限り見守っている。又コミュニケーションが難しい方でも孤立しないように声掛けや、職員が間に入りコミュニケーションを取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて相談を受け助言している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べ物を初めとし、行いたい事、行きたい場所等お聞きし、出きるだけご希望に応じよう支援している。	利用者ニーズに応じて個別支援を方針としている。要望は食事等が多いが、特に「夕飯のつどい」では刺身や鰻、寿司等の要望が多く出され対応している。また、外出希望も多く対応している。仕組みとしては、センター方式の一部を活用して意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活暦の作成を家族に依頼、今まで使用してきた家具、食器等をなるべく持ってきて頂くようお願いし、環境の変化が少なく済むよう家具の配置にも配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の変化や新たな発見が見られた場合、個人記録、日誌、申し送り、フローノート等使用し、全職員が把握するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見やご家族の要望を伺い現状を踏まえた上で介護計画の実施に努めている。	ユニット会議で全職員が一人ひとりの利用者について意見を述べ、ご本人・家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。	体調変化等に対応して介護計画を変更する場合、基準等明確にすることが望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日記録し、些細な変化、新たな発見も記入、情報の共有に努め、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度お話をし出来るだけ要望に応えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受け入れ、保育園、小中学校の行事参加等交流が行われている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院を基本としてご家族に説明、他の病院を希望する方に関してはそのように対応させて頂いている。	基本的には総合病院、歯科各一軒と連携体制を取り受診している。連携病院との関係が深い近所の開業医とも、携帯で連絡できる体制を取っている。入所前のかかりつけ医には、利用者の意向を尊重し継続受診しているケースが数例ある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1～2回看護師が勤務、健康チェックが行われる時に、変化、心配な事を伝え、場合によっては受診を行う。又看護師不在時も、何かあれば本部の看護師や併設のデイサービス看護師に相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ソーシャルワーカー、時には医師と連絡を密に取り治療状況やリハビリの状況を伺い入院を長引かせないようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおいて行える事、行えない事は入所時よりお話しし、その後繰り返し話し合いを行い、他機関とも連携を図り支援している。	看取りの指針は作成済みではあるが、終末期の体制は未整備である。重度化した場合には、他施設や本部との連携で支援を手厚くしている。入院の際は見舞うなど不安を与えないよう配慮している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症、緊急時対応の研修を定期的に行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。地域との協力体制は特に行われていない。	避難通路等は確保されている。また施設周辺を農地・果樹園等で囲まれており、災害時の避難場所としては不安がない。今後、災害発生時に地域の方々の協力が得られる体制を構築される事が望まれる。	地域や自治会等との連携を強くし、施設の理解を深めて頂くことにより、協力体制が得られることを期待する。災害発生時に備え必要最小限の物品の備蓄等も検討されることをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、声掛けには注意を払っている、職員間でも「今の声掛けは良くない」等話し合っている。	「人間尊重」の法人の理念は、全職員で共有化している。職員間の信頼関係も確立されていて、カンファレンスにおいて互いに気づいたことを遠慮なく話し合う機会が持たれている。トイレ・風呂等の利用時にも人格尊重の確保に配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時にはまず本人の意思を確認してから行い、希望を聞き、可能な限り応じるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型の希望を聞き(毛染め・パーマ含む)移動美容室による支援、又化粧品(口紅等)の購入目的の外出支援等行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、テーブル拭き、野菜の皮むき、カット、味付け、配膳、後片付け等行って頂いている。	食材はカロリー計算されたものを調達しているが、調理は職員が家族の要望でかゆ食にするなど、利用者の希望に沿ってきめ細かく手作りされている。夕餉の集いや誕生日等にはメニューに変化を持たせたものにし、利用者の楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の摂取量に応じて行っている。水分摂取の少ない方に関してはゼリーを提供するなど工夫に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の緑茶でのうがい、食後の歯ブラシ等個々に合わせて行っている。又訪問歯科の助言を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄表を作り、その方に応じた誘導を行っている。	利用者の排泄のリズムはつかんでいる。見直しはユニット会議で行い、個々にタイミング等の調整をきめ細かく行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩・運動・ヨーグルト・牛乳・にがり等個々に合わせて行っている。又必要に応じて医師に相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯によっては限りがあるが、曜日指定は希望者のみ行い、他の方は自由に入っただけである。	浴室は大きなガラスの引き戸越しに、外の植え込みや樹木がよく見えるゆったりとした造りとなっている。入浴時間は利用者の希望にそって余裕をもたせている。入浴拒否者には、今日は駄目でも明日がんばるという方針でねばり強くすすめている。	脱衣所や浴室がすこし殺風景という意見も見られる。蛍光灯の色を暖色系に変えたり外庭に花を置くなどして、より安堵感を増して楽しい場所という雰囲気を出していかれること希望する。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はほぼ個人に合わせて行っており、不眠の際は温かい飲み物やお話を聞く等で対応している。日中は夜間にひびかない程度自由に休んで頂き、声掛けを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用などは直ぐに見られるようファイリングを行っている。又新たな薬が処方された場合申し送り、症状や変化した場合状態によっては医師に相談を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割としては、その方に応じて掃除・洗濯物たたみ・調理・等家事一般に関して行っただけであり、余暇の時間を使い趣味の生け花や、ゲーム等を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常的に行っている、又バスハイクとして各自行きたい場所の聞き取りを行い外出計画を立てていたが、今年度は新型インフルエンザの影響により実施出来なかった。	買い物は受診の機会を利用したり、一週間に2回程度施設の調味料等日用品を買いにいく際に一緒に行ったりしている。環境に恵まれているので、天気の良い日は全員が外に出て、運動をかねて多く日光に当たるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方に関しては、おこずかいで買える物は支払いをして頂いている。そうでない物は立替にて行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるよう、玄関に設置してある。手紙に関しては、はがき等の購入からポストへの投函を行って頂く様支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な日差しに関しては、カーテンやブラインドで調整を行っている。又皆様と一緒に手作りし季節ごとの装飾品をかざりつけている。	高い天井から大きな照明具がいくつも下げられており、柔らかな光で共有空間が包まれていて、利用者の方も自慢げに話されていた。室温調整も行き届き快適である。利用者の満足度が高い居心地のいい空間となるよう気配りがなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一面の広いリビングではあるが、テレビ前のソファ、テーブル席、中庭を見ながら籐の椅子に座る、等されている。又時には玄関のベンチに座られている事もある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご家族に、出来る限り現状を変えないよう、家具や配置を同じようにして頂くようお願いをしている。又食器も今まで使用していたものを持ってきて頂く様お願いしている。	各居室の入り口には大きな字で書かれた名札がはられており、その月にあわせた手作りの飾り物で出入りのたびに季節感を感じさせる工夫がされている。入所前の思い出のレイアウトの再現、コタツ・畳の生活にも対応できるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は解る様に表示や目印がされてある。		